

震災から2年

浪江町長 馬場 有

時は弥生。大震災・原発事故から2年経ちます。この間、町民の皆さまにはそれぞれ、さまざまな苦悩、怒り、不安の日々の連続であったと思います。すべての町民が国内避難民として位置づけられ、虐げられた生活を送っていることの無念さを思うと痛恨の極みであります。

緊急避難期にあたって、役場が果たさなければならぬことは何かを考え、私は喫緊の対応策として、震災後間もなく「暗中八策」を提案し、町民の負託にこたえるべき施策を日夜展開してまいりましたが、町民の多様なニーズにタイムリーに応えることができなく、ご迷惑をおかけしております。

「明けない夜はない」ことを信じて、職員・NPO・諸関係機関のボランティアと一体となり、この対応期を乗り切り、ようやく「暗中八策」を基本に、昨年の10月、浪江町復興計画【第一次】が策定され、本年からこの個別計画を作成し、実施する段階に入りました。
浪江町内に復興拠点を置き、本年より上下水道・町道などの計画など、社会基盤の復旧整備

に着手します。町外コミュニティを県内に設置し、住環境の整備に着手、避難指示解除見込みまでの新たなコミュニティ創造を目指します。同時に、町内のコミュニティの環境整備の行程表を作成します。生活再建・支援のために、東電に対しては賠償の迅速化ならびに財物賠償をもの確に加害者としての責務を果たさせます。

また、居住制限区域・避難指示解除準備区域の面的除染が始まりますが、引き続き帰還困難区域は、実証実験の部分除染を行います。
県外に避難している町民のためには、「絆」の維持を図るため、新たに埼玉県・新潟県・京都府に復興支援員を配置し、交流機会を増大させます。

「ここに住んでも浪江町民」であります。行政として、町民の皆さまに寄り添って将来の展望を拓いてまいりますので、よろしくご指導をお願いいたします。
花冷えの季節です。くれぐれもお体をご自愛されることを祈念します。

平成24年3月～平成25年3月

平成24年

- 3月1日 町での食品の放射性物質測定開始
- 11日 浪江町東日本大震災追悼式
なみえ3.11復興のつどい
- 3月末 除染のモデル実証事業終了
- 4月19日 浪江町復興ビジョン策定
- 26日 全町民対象の内部被ばく検査（ホールボディカウンター）を開始
- 5月29日 4回目の一時的立入り開始（7月14日まで）
- 6月 公的施設の先行除染開始
全世帯に放射線測定器を配布
第2回復興に関する町民アンケートを実施
- 7月1日 「放射線健康管理手帳」を発行（全町民に配布）
- 23日 町独自の子どもの甲状腺検査を開始
- 27日～ 夏休み子ども親子交流事業を各小・中学校ごとに実施
- 8月3日 浪江町仮設図書館「浪江in福島ライブラリーきぼう」開所（福島市笹谷）
- 25日 5回目の一時的立入り開始（10月13日まで）
- 10月1日 役場機能を仮設庁舎に移転
- 12日 浪江町復興計画【第一次】策定
- 22日 浪江町住民説明会開催（11月18日まで全14会場）
- 11月3日 6回目の一時的立入り開始（12月14日まで）
- 21日 浪江町除染計画の公表
- 12月 19歳以上40歳以下の町民の甲状腺検査開始
下水道管被害調査開始
津波被災地の集団移転に関するアンケートの実施
区域再編に伴う住民説明会の開催

平成25年

- 1月 住民意向調査の実施
子どもの初期被ばく検査開始
- 25日 避難指示区域の見直しと避難指示解除見込み時期の最終的な町の方針を国に通知
- 2月14日 7回目の一時的立入り開始（3月24日まで）
- 3月1日 届出避難場所証明書の発行開始

なみえ3.11復興のつどい

とき 3月16日(土) 10時～16時

ところ 二本松市 安達文化ホール、安達公民館 ほか

震災を忘れず、ふるさと浪江町を感じることでできるイベントとして、浪江町の仮設住宅や借り上げ住宅自治会を中心とした実行委員会が町民の皆さんをお迎えします。全国の浪江町の皆さん、この機会に集まってふるさとを感じてください。

実行委員長 佐藤 秀三

☎ なみえ3.11復興のつどい実行委員会事務局
☎ 0243-62-0305